

人口減少社会と

地方都市の活力再生

56



清水 秀幸
主席 研究員

株式会社さくら都市総合研究所

14 新田町交差点周
辺を考える

筆者は、本年2月以

数回にわたり、表参道

のほぼ中間点である新田町交差点周辺を取り上げていきたい。

同交差点は、前項で述べたとおり末広町から善光寺に向かつて北上する表参道の中間地点に位置し、そこを東西に結ぶ昭和通り（正式には、国道19号）と交わる県内でも有数の結節交差点であるとともに、信号機（1954年）、スクランブル歩道（71年）、電子演奏装置付信号機（72年）等、県内で初めて採用

された先駆的交差点としても有名だ。

そもそも、現在の昭和通りは、米国に端を発した29年の昭和恐慌に伴う国策失業対策を前提に着手され、35年に完成した道路だ。

そして、今日も一般車輛はもとより、日毎20系統約40路線バスの行き交うセル環状道路として、交通政策上重要な役割を果たしている。

とりわけ、昭和通りの西の起点となる県庁から市役所に至る区間は、官公庁はもとより、オフィス、銀行、メディア本社、小学校等多種多様な建物が並び、

同交差点周辺は、近代長野市の都市形成の歴史上、また商業史上、栄枯盛衰の表舞台として、その価値が極めて高い地域でもある。

また、表参道において

では、同交差点を境に、以北を「市道」、以南を「県道」として分岐している。

既に以北については、同市の修景事業の一貫として約15年を要

した石畳化が完成し、先の善光寺御開帳期間中、外国人を含めた県内外の多くの来街者から、高次元の修景事業として高い評価を得ている。

（続く）

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長



商業の歴史を知る新田町交差点